

八尾市・柏原市・羽曳野市・藤井寺市

4市施設連絡会 交流会を開催！

令和4年11月15日（火）、市民総合会館別館中ホールにおいて、4市（八尾市・羽曳野市・柏原市・藤井寺市）の各施設連絡会の交流会を開催し、48人が参加しました。

これまで、各社会福祉法人は、地域住民が抱える多様な福祉ニーズに対応し、様々な取り組みを行ってききました。しかし、コロナウイルスの感染拡大で、各社会福祉法人施設の運営にも大きな打撃を受けています。が、地域貢献への期待は、さらに大きくなっています。多様・複雑化する地域住民の福祉ニーズに 대응していくには、社会福祉法人施設単体の支援では限界があり、市行政、市社協はもちろんのこと、近隣市の社会福祉法人が連携し、「協力」「協働」の関係を強化していくことが必要と考え、本交流会を開催いたしました。

◆基調講演◆

基調講演では、八尾市社会福祉協議会社会福祉施設連絡会（以下「八尾市施設連」）会長 荒井恵一様と特別

養護老人ホーム幸寿のCSW 中浦治子様から、『八尾方式の設立経緯と社会福祉施設連絡会の展開』八尾らしい連携のかたち、地域共生社会 おせっかい日本一を目指して』をテーマに講演がありました。

◆八尾方式について◆

八尾市施設連の相談援助の連携システムを取り組みは、八尾モデルとして、社会福祉士の養成テキストにも掲載されるほど、称賛さ

れている取り組みです。

相談者がどこかの施設へ相談をされ、相談を受けた施設はそのグループの幹事施設へ連絡をします。そして幹事施設は自らが同



基調講演をされる八尾市施設連絡会
会長 荒井恵一様



グループディスカッションの様子

行するか、他のチーム内の施設へ連携の相談を持ち掛け、2施設で相談支援に入るという仕組みです。2つの違う施設が関わることで、視点や価値観が、複合的になっている課題により適切に対応できるとのことでした。

その他の工夫として、地域密着の伴走ができるように八尾市を地域ごとに3つのチームに分けるなど、継続的に活動していくため、常にブラッシュアップをしながら、その時々々の情勢に合わせて柔軟に進化していかないとけないということでした。

今後は、LINE等の活用や、ICT化をすすめ、八尾市全体で相談及び相談者の属性を問わない、断らない支援を行っていく方針で、それには、行政や社協の皆

様との連携強化が必須で、行政、社協、民間社会福祉法人がひとつになって おせっかい日本一を目指していくことを宣言され終話となりました。

交流会参加者アンケート抜粋

【八尾モデルについて】

- ・複数の施設で対応するということ参考になった。
- ・施設間の顔が見える関係の大切さを感じた。
- ・八尾モデルのやり方で、1事例に対して複数の人が関わるのは、支援する側として心強く、うらやましい。
- ・LINEを使っている情報交換などよく考えられている。
- ・経験値、スキルアップなど様々な視点からシステムを作られたのが良く分かった。

【グループディスカッション】

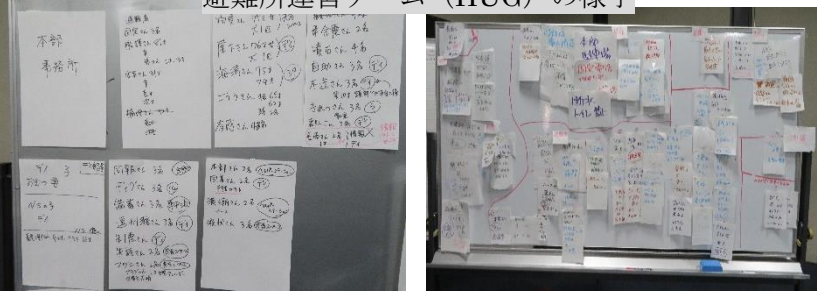
- ・他市、他職種の方と意見が交換できて参考になった。
- ・グループ内の参加者の具体的な内容が聞けて良かった。
- ・グループのメンバーが施設のリーダー的存在の人達で、積極的に司会、記録、報告ができよかった。
- ・他市との取り組みの違いや対応の違いが分かり良かった。
- ・社団法人の地域貢献活動の在り方として、その法人が有している能力を最大限発揮できる支援を考えたい必要性を感じた。

災害小委員会

令和5年2月27日(月)
市民総合会館別館中ホール
において、NPO法人高齢
者住まいる研究会 理事長
寺西 貞昭 様を講師として
迎え、「HUG（避難所運営
ゲーム）社会福祉施設パー
ジョン」を実施しました。



避難所運営ゲーム (HUG) の様子



「理事長と連絡がとれない、指揮命令権の確保はどうしたらいいか」「発電機はあるが、燃料は何か、ガソリン？灯油？プロパン？どこで調達する？」「避難してきた市民を運営者のひとりとして協力してもらえないか？」「水道が使えない。貯水槽は大丈夫？」など災害時は想定を超える事案が次々と飛び込んできます。

HUG社会福祉施設バージョンは、場面を地域の避難所から社会福祉施設に置き換え、夜中に発生した大地震直後から施設の利用者やその家族、避難者が押し寄せてきたという想定で、施設利用者の安全確保、建物等の被害状況の把握や応急処置、職員等の安否確認等、様々な事情を抱える

街頭募金の実施



令和4年10月27日(木)午後6時から藤井寺駅周辺で実施し、会員18人と子ども子育て連絡会と共同して、赤い羽根共同募金街頭募金を実施し、市民の皆様に協力の呼びかけを行いました。

施設連絡会として募金活動を実施して6年目。今年も多くの本会会員施設の職員の方にご協力・ご参加をいただき、市民の皆様に共同募金の啓発と、施設連絡会のPRを行うことができました。

今年の街頭募金活動で集まった募金総額は28,553円。その他、本会会員施設では、今年も募金箱を設置するなどの協力も行っています。

これらの募金は、大阪府共同募金会に送金され、次年度の地域福祉事業の為に活用されます。



避難者の受け入れ、情報共有など、様々な出来事にどう対応していくか、具体的な行動を模擬体験するもので、実践的なBCP策定を支援する土台となる研修会となりました。

◆参加者アンケート(抜粋)

- ・ 体験でゲーム感覚として学べるのが良かった。
- ・ 実際の施設運営、BCPに役立つ。
- ・ 災害が起きる前にしておかなければならない事は何かのかを考える機会となった。
- ・ 受け入れ基準、受け入れスペースの把握を改めて考え直すきっかけとなった。

- ・ 平常時に取り決める事、備える事を知る機会になった。
- ・ 情報を整理して共有する

た。には、何の準備が必要で確認項目が何なのかというのを再確認できました。

令和5年度 藤井寺市施設連絡会 総会について

日時：令和5年5月25日(木)
15時30分

場所：福社会館 2F 講座室

- 案件：①令和4年度事業報告
②令和4年度決算報告
③役員改選
④令和5年度事業計画
⑤令和5年度予算

※詳細は別途、文書にてご案内いたします。

